

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2690600123		
法人名	(株)エクセレントケアシステム		
事業所名	えくせれんと岡崎 (2階)		
所在地	京都府京都市左京区岡崎南御所町38-1		
自己評価作成日	H.27.11.25	評価結果市町村受理日	平成28年3月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員とご利用者、ご家族との関係作りについては、力を注いでいる。今後ケアを行っていくに当たってご家族との連携も大変重要であるとする。安心して、日々ゆっくりゆったり過ごせる環境作りにも出来るだけ気を配れる様配慮している。より個別性を図れる様心掛けている。何より入居者様のみならず、ご家族が来訪して頂いたときにもご利用者と共に、自宅、実家に帰ってきたのと変わらぬほどの安心で安全な環境作り努めている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JijyosyoCd=2690600123-00&amp;PrefCd=26&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JijyosyoCd=2690600123-00&amp;PrefCd=26&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 京都ボランティア協会		
所在地	600-8127 京都市下京区西木屋町通上ル梅奏町83-1「ひと・まち交流館 京都」1F		
訪問調査日	平成28年1月29日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

京都市内で最も環境に恵まれた左京区岡崎の地に、株式会社エクセレントケアシステムが平成25年12月に「エクセレント岡崎」として、認知症対応型共同生活介護(グループホーム)2ユニットと小規模多機能型居宅介護を開設された。平安神宮の東側の道を少し東に入った所の3階建ての瀟洒な建物である。観光客であふれる平安神宮から少し逸れているので、静かな雰囲気を持っている。高級住宅街という地域事情もあってか、老人介護施設の利用に対して抵抗があった様であるが、3年目に入った現在では、友好関係が築かれている。地域の行事である夏祭りや朝市・出店・大道芸人のイベント等情報を貰って参加している。事業所の夏祭りでも交流の機会が来ている。音楽療法や大正琴・アロマハンドマッサージ等多くのボランティアの協力で、変化のある日常生活が得られている。入居者一人ひとりの思いを受けとり、自由な暮らしを継続出来る様に支援している。個別介護支援経過表に“その人の思い”を記載し、多職種で検討してより現実に即した生活援助計画を作成している事からも理解できる。入居者・職員共に穏やかな笑顔が見られる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型事業所として、開所後3年目となる。理念を実践させて行くためにさらにまだまだ勉強し、実践力を各職員身に付けて行かなければならないと考える。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	前回と同様に、毎年の地域事業の参加と事業所での毎年行事への地域の方々へのご参加への声かけ、自治会長、民生委員、老人福祉委員さんへ推進会議へのご参加の呼びかけを含め、繋がりを持てるよう心掛け、日常的に交流出来るよう努めている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民参加型のイベントを行い、具体的な事業所内での取り組みや、当事業所をご利用、入居されているの方々への理解を直接触れ合うことで理解して頂ける様努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度、推進会議を開催し、えくせれんと岡崎での取り組みの説明やご家族との意見交換、疑問解決に向けての話し合い等、ご家族や、関係機関の方々の声を具体的にサービス向上に活かせる様努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	まだまだ市町村ご担当の方との連携は希薄と言わざるを得ない。引き続き、実践としての取り組み内容を検討し、改善させてゆべき課題である。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の勉強会や研修は、今後も行って行く予定である。事業所として玄関の施錠に関しては解放出来るよう検討はしているが、基本的に危険回避の為の施錠であり危険個所に限定して行いたいと考えてはいる。外出などご希望の際には出来る限りすぐに対応し、スタッフと共に外出されている。		

京都府 グループホーム えくせれんと (2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人での新人研修に始まり、当事業所でも全体ミーティングでの勉強会、研修を行える様努めている。またフロアミーティングで職員間での話し合いの場を持てるようにし、見逃しが無い様注意を払っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護、成年後見に関することを職員が学べる様、事業所内研修を通し行っている。が、実践としての学びの機会が無く事業所内での研修、勉強会に留まっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には契約書を基に説明を行いその際に出た疑問や不安についても聞き取りを行い十分理解して頂ける様努めている。また不明な点についてもいつでもお問い合わせ頂き、返答させて頂くとお伝えしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の面会時や、運営推進会議などでもご意見、ご要望を頂ける様努めている。また事業所内、サービス向上委員会にて、苦情対策、接遇に関しても話し合いや研修を行い、ご意見を反映出来る様努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体運営会議や、フロアミーティング、日々の職員との会話を通じ意見を出来るだけ反映出来る様注意し、心掛けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価を用いて、各職員が目標を立て目標達成に向けての具体策を挙げている。また相談できる時間を設け、職員全員が出来るだけ無理なく健康状態を保てるよう就業時間についても検討し、改善を試みている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員のレベルやニーズに合わせ、研修を段階的に受けられるよう法人と相談しながら手配している。また、自主的に外部研修に参加できるよう情報の提供をし、参加を促している。事業所内においても毎月全体研修として研修を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議や事例検討会などにも参加し、他事業所、同業者との交流の機会が増やせるよう努めている。また認知症介護実践者研修などにも申込みを行い他事業所職員との交流のきっかけ作りを行える様努めている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居、ご利用前に、御自宅へ伺い面接、面談を行い、どのような環境で生活されていたのかを確認させて頂いている。多くの不安を抱えておられるご家族については入居前に繰り返し話し合いを行い、ご家族へのケアも心掛けています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族に関してもご本人と同様に十分な聞き取りを行い御本人が入居後も徐々に不安材料が減少して行けるようケアして行く姿勢である。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	十分な聞き取りを行いながら「その時」に合わせた他サービスもご紹介し一緒に検討して行けるよう情報提供を行っている。訪問リハビリや福祉用具の導入も必要に応じて行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その日、その瞬間を共有できる、一番身近で安心出来る存在。グループホームでのすべてのケアに通じて行く根本的な考えであると思われる。全職員が自然に認識し、ケアに当たってくれていると信じ今後も指導に当たりたい。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご入居後も繋がりをもち続けて頂ける様可能な限り面会などにも着て頂けるよう声掛けを行っている。イベントや家族会にも参加して頂ける様呼びかけ、面会時や電話での近況報告も心掛けて行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や兼ねてからのご友人などには特別な面会時間等を設けずいつでも来所が可能な体制作り行える様努めている。ご家族や馴染みの方々との外出も可能な限り出来る様支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	御入居者との馴染みの関係や、信頼関係が構築されつつある。仲良しでの会話やお散歩等も行い、楽しんでおられる姿もよく見掛ける。個別ケアとは別の意味で孤立しないよう注意しながら見守りを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	色々なご事情によりサービスを終了された入居者様のご家族からも相談などがあつたり、来訪して頂ける機会も多い。また必要に応じてお会いできる機会を作れる様努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常日頃よりご本人の希望や意思に添えるよう聞き取りなどには力を注いでいる。また意思の疎通、意思確認が難しい場合にはご家族からご本人の情報提供をお願いすることもあり、趣味趣向の把握にも努め、職員間で検討を重ねている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のご家族とご本人からの聞き取りをはじめ、その後も馴染みの方々からの聞き取りを行える様努めている。今後はご家族にもご協力をお願いし、更に深くご本人への理解が出来る様、対策を検討している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	フロアミーティング(運営会議)などでも気付いたことや、気になっている事は話し合いを行い、問題解決に繋がられる様努めている。また、生活記録を職員同士確認し合い、申し送りノートなども活用している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族からのニーズのすくい上げは、運営推進会議や面会の際の近況報告時などに行っている。ご本人からは日々の生活を共にしている中からすくい上げを行っている。それを参考、基にして、皆で話し合い作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランと同時進行で、生活援助計画を作成し、より細やかにケアして行けるよう試みている。今後のケアプラン作成については、よりライフサポートプランにより近づける様プランの構築、作成に力を注ぎたい。		

京都府 グループホーム えくせれんと (2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現状、グループホーム内でのサービスを越えたニーズが具体的には無いが、要望が出た場合には出来る限り柔軟に対応して行きたい。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	事業所近くのお寺や神社へ出かける機会も多く、年に何度かの家族会も地域のレストランなどを利用して頂いている。ご家族との個別の外出時にも近隣のコーヒーショップやレストランを利用されている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療連携体制を取っている為、月2回の往診や、主治医に対するご家族からのご要望なども聞き取り、Drにお伝えするようにしている。また緊急時には臨時往診の対応もとって頂ける様お願いしている。馴染みの病院に通われている方も居られる。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホームに看護職員の配置は無いが、同施設内、小規模多機能型居宅介護(エクセレント岡崎)配置の看護職員へ、緊急時などには相談が可能である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療連携病院、及び他医療機関にご入院の際にも病院関係者とも情報提供をし合いながら、密に連絡を取り合っており、ご本人、ご家族とも退院後安心して過ごして頂ける様バックアップ体制を取っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	運営推進会議などでも地域の方々、ご家族にも重度化、終末期の在り方や難しさなどの説明の場を設けている。また契約時にもご家族に説明の場を設けている。今後、重度化した後のケアについては当事業所での大きな課題になると思われる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成し、グループホーム職員に周知徹底を呼び掛けている。また、日々業務中にも緊急搬送他、医療連携者、ご家族と連携を行う機会もあり、実践力を身に着けつつ努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	最低年2回の消防訓練を予定しており、実践している。運営推進会議でも、地域の方々へ非常時の対応や避難場所などのご説明とお願いを行っている。地域の消防署にご協力頂き消防訓練を行っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お一人おひとりに適した言葉かけや対応を行うよう心掛けている。不適切ではないかと思われる声掛けを行った時は職員間で注意しあえる関係を築ける様努力している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いやご希望を聞き出し、傾聴出来る時間が取れる様努めている。入浴や、その日に着たい服、食べたい物等些細な事であっても、ご自分で意思決定して頂ける事はして頂ける様声掛けを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	就寝、起床時間など、お一人おひとりのペースに合わせられる様努めている。出来る限り、ご利用者本位のケアを行えるよう心掛けている。急な訴えにも極力対応出来る様努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日の服の選択や、起床時や入浴後の髪の設定、外出時のお化粧品など出来る範囲でご本人にも行ってもらっている。また、定期的に訪問美容、ボランティアでのアロマハンドマッサージなども行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	御入居者のレベルに合わせ、可能であれば洗い物やお膳拭き等をお手伝いして頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量に関しては毎食後毎チェックし、記録に落としている。好きな飲み物を飲んで頂いたりおやつ時にも水分量を意識し、ゼリーや寒天など職員が手作りで提供することも多い。		

京都府 グループホーム えくせれんと (2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、就寝前等、声掛け介助をはじめ危険の無いよう見守り、ご本人の力を行かせる口腔ケアが出来る為の声掛け、促しをするよう努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の記録を利用しながら個々の排泄パターンやリズムをつかめる様努めている。またリハビリパンツやおむつを極力使わず気持ち良く過ごせるよう、布の下着を出来るだけ長い期間利用して頂くため皆で検討し、支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事内容や水分補給にも気を配り、散歩やお手伝いを通し極力体を動かして頂ける様支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日お昼前から夕方までの間に、基本的にご希望に沿い入浴して頂いている。入浴拒否のある方にも極力無理せず楽しく入浴して頂ける様工夫し常日頃から信頼関係を築けるよう関係作りに努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間に決まった物は無い。これまでの生活歴などを参考に、入眠誘導、声掛けを行い、個々の時間の把握をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々のお薬リストを保管。ファイルし、把握に努めている。分からない事あれば、薬剤師や主治医に直接説明を受けている。状態の変化などあればDrに相談、報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご家族とも連携、御協力を頂き、相談しながら趣味嗜好の把握に努め、その方にあった楽しみを見つけられる様努めている。お一人おひとりの役割作りを見つけられる様検討して行きたい。		



京都府 グループホーム えくせれんと (2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	イベント企画などを利用し、ご家族の御協力も得ながら一緒に参加して頂き、普段は行けないが行ってみたい場所にも行けるよう手配に努めている。また気候の良い季節には散歩等外出出来るよう援助している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご希望のある方に関しては入居時に少額の現金はご家族の了承の元持って頂くが、金銭管理が困難な方がほとんどであり、買い物希望、外出時には施設での立て替えを行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があった時には施設の電話をご利用いただき、ご家族と手紙のやり取りをされている方もおられ、その都度支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	落ち着いた、温かみのある居場所を心掛けている。季節の飾りなどについても、香りや植物も大切に、心地よいお家作りを心掛けている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルやソファの配置を工夫し、皆で過ごす場所、少人数での居場所、少し離れてゆっくり過ごせる場所等居場所作り行える様心掛け、検討している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染みの家具や食器などご本人の使い慣れたお好きな物をお持ちいただき、住み慣れた自宅と同じような空間作り出来るだけする事で心地よく過ごして頂ける様工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアでは、歩きやすく、つまずきなどが無いようにテーブルや椅子を配置したり、個人用のその人に合った椅子をご家族が用意して下さることも多い。それぞれに出来る事の認識と残存能力の維持に努めている。		